

2023年5月3日(水)第一水曜祈祷会

創世記37章18～36節

『死から逃れたヨセフ』

■創世記37章1～17節 『人の愚かさをも用いる神』 *ヤコブの歴史として記されている

- ①ヤコブには12人の息子の中で、愛妻ラケルの子のヨセフを最も愛していた。
- ②ヨセフは夢の中で兄弟たちが自分にひれ伏していたことを誇らしげに語った。
- ③ヨセフは兄弟たちから妬まれていくが、神はそれさえもご自身の栄光のために用いられる。

■創世記37章18～36節 『死から逃れたヨセフ』

1. 兄たちの憎しみ(37章18～24節) *あや織りの長袖を着たヨセフは遠くからでもよくわかった。

- ①兄弟たちはどうしてヨセフを殺そうと考えたのですか。
→
- ②ルベンはどうしてヨセフを殺すことを止めたのですか。
→
- ③兄たちは助けを求めるヨセフの声をどのように聞いていましたか(42:12参照)。
→

2. 売られたヨセフ(37章25～30節) *イシュマエル人とミディアン人は近い関係にあった。

- ①「座って食事をした」は、兄たちのどんな心情を表していますか。
→
- ②ユダはどうしてイシュマエル人にヨセフを売ろうと提案したのですか。
→
- ③ルベンはヨセフがいなくなっていることを知って、どう思いましたか。
→

3. 父ヤコブの悲しみ(37章31～36節) *「よみ」(シェオール)…死者の集められる場所。

- ①ヨセフの長服に血を浸していることから兄たちのどんな気持ちがわかりますか。
→
- ②父ヤコブはヨセフが獣に食い殺されたと思って、どんな思いになりましたか。
→
- ③父の嘆き悲しむ姿を目の当たりにして、兄たちはどう思いましたか。
→

【適用と分かち合い】

- ①ヨセフは穴に投げ込まれ、兄たちの殺意を知ったとき、どう思いましたか。
- ②いろいろあっても、ヨセフはどのようにして殺されずに済んだのでしょうか。
- ③最悪な状態の中にも、神の救い(脱出の道)を経験したことがありますか。